

## ○宮澤賢治の世界へようこそ ～読書の感動は、いつまでも忘れません～

今年には宮澤賢治生誕125年です。これを記念して、学校司書の小柳先生によるブックトークがありました。この日のために小柳先生は、ら・ら・かんらや甘楽中から6年生全員分の宮澤賢治の本を借りてきてくれました。

初めに小柳先生は、読む本を選ぶきっかけは、次のどれに当てはまるかを6年生に投げかけました。①「好きな作者だから」、②「見た目がいいから」、③「内容がおもしろそうだから」、④「人に勧められたから」の4択。子どもたちの大半は、③「内容がおもしろそうだから」に手を挙げました。でも、小柳先生は、①「好きな作者だから」だそうです。好きな作家の出身地や誕生日、幼少時代どんなふうにご過ごしていたかなども気になるそうです。今回のブックトークは、そんな小柳先生が好きな作家、宮澤賢治のお話です。

小柳先生は、小学5年生の時に初めて宮澤賢治の本を読んだそうです。その本は「宮澤賢治童話全集(1)ツェねすみ」。その時の感動を「本が光って見えた」と話してくれました。それからしばらく違うジャンルの本を読んでいて、宮澤賢治の本から遠ざかっていた時期があったそうです。そして、大学時代、宮澤賢治の作品を研究している友だちと出会い、その人の影響で、再び宮澤賢治の世界にのめり込みました。学生時代に岩手県花巻市まで行って、宮澤賢治の生家やレストラン「山猫亭」を訪ねたそうです。今回のブックトークでは、当時読んだ「山男の四月」「気のいい火山弾」「オツベルと象」「銀河鉄道の夜」などについて、その当時の感動を自分の体験を交えて話してくれました。(小柳先生のお話は、いつも作品のさわりの部分に触れるだけで決してネタバレはありませんが、本の続きががとても読みたくなります。)こんな興味深い話を聞いたら、誰でも宮澤賢治の本が読んでみたくなってしまったと思います。



小柳先生のお話を聞きながら、私も宮澤賢治の本との出会いを思い出しました。それは小学生の時、国語の授業中だったか朝の読み聞かせの時間だったかは忘れてしまいましたが、その時の感動は今でもはっきりと覚えています。担任の先生が読んでくれたのは「注文の多い料理店」。本のタイトルを聞いた時は、料理のメニューが多いくらいなことを感じていましたが、物語が進むにつれて、「えっ?」「なんか変だぞ」「なんでそんなことするの?」と、ワクワクドキドキしたのを覚えています。



この日の6年生も小柳先生の話聞いて、宮澤賢治の本を1冊ずつ選んで手に取り、真剣に読み進めながら、宮澤賢治の世界へ入り込んでいきました。

## ○10月の主な予定

5日(火) 代表委員会  
6日(水) 後期児童会本部・委員会  
紹介、情報教育、クラブ  
7日(木) 読み聞かせ  
8日(金) 全体練習、5校時授業  
9日(土) 運動発表会  
10日(日) 運動発表会予備日  
11日(月) 振替休業日  
12日(火) 就学時健康診断  
13日(水) 朝礼、情報教育、委員会

15日(金) 6年修学旅行、業前運動  
18日(月) 教育実習開始(～11/9)  
なかよしアンケート  
19日(火) スクールカウンセラー来校  
20日(水) 音楽集会  
21日(木) 読み聞かせ  
22日(金) PTA推薦委員会①  
26日(火) 代表委員会  
27日(水) 1～4年旅行  
28日(木) 群馬県民の日  
29日(金) 業前運動